

巻頭言

本誌「さざなみ」は、親と子の読書感想文を内容とする県立図書館児童室文集として、昭和45年3月に創刊されました。その後、第7号からは現在の親子読書研究誌「さざなみ」として、親子読書に関わるみなさんのために参考となる研修会の情報や子ども読書推進のための様々な取組、本県の読書推進活動の状況などをまとめ、県立図書館ホームページ上に公開し、多くの方々に御活用いただいています。

本県の親子読書運動は、昭和35年、当時の県立図書館長であった久保田彦穂（棕鳩十）の提唱による「親子20分読書運動」から始まり、半世紀以上にわたって継続して取り組まれてきています。

平成13年に「子どもの読書活動の推進に関する法律」が成立しました。これは、「子どもの読書活動の推進に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務等を明らかにする」とともに、国が「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定・公表すること、4月23日を「子ども読書の日」とすること等を定めることによって、「子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって子どもの健やかな成長に資する」ことを目的としています。

平成30年4月には、「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」（第四次基本計画）が、第三次基本計画期間における成果や課題、諸情勢の変化等を検証した上で定められました。

本県でも、あらゆる機会において自主的に読書活動が行われ、子どもから大人へ生涯にわたる読書習慣を身に付けられるよう、家庭・地域・学校が一体となり、子どもの読書活動の推進と読書環境の整備に取り組んできました。そして、平成30年12月には、第4次鹿児島県子ども読書活動推進計画が策定され、2019年度からは『1日20分読書』～心に残る1冊の本との出会い～』のキャッチフレーズのもと、子どもの読書活動の推進のために県下全域で取組がなされることとなります。

県立図書館でも、それを踏まえて「1日20分読書で出会える『宝本』～絆を深め、感動を味わい、自分を見つめる大切な一冊～」として「宝本」を通した「おやこ一冊読書」運動をさらに進めていきます。

読書は子どもたちの心に感動を与えてくれます。これからも、家庭、学校、地域で親子読書活動の継続と一層の充実を図り、子どもたちの心の扉をたたいていきたいものです。

平成31年3月

鹿児島県立図書館長 原口 泉